

いのちを守る署名へのご協力よろしくお 願いします。社保協の目標は、3万筆 紹介議員は、113名になりました。

3月4日全労連、中央社会保障推進協議会、医療団体連絡会議、医療三単産は、東京・千代田区で集会を開き、コロナ禍で国民のいのちを守るため医療・介護・福祉の拡充を求める国会請願署名（いのち署名）24万4600人分を提出しました。

主催者あいさつをした小畑雅子全労連議長は、コロナ禍でいのちが脅かされるなか、安心・安全な医療・介護・福祉の拡充こそ求められると強調し、国民と共同して運動を広げようと訴えました。行動提起した日本医労連の森田進書記長は「国民のいのちを守る政治を求める世論を高めることが重要。署名をさらに広げよう」と呼びかけました。石川勤労者医療協会の柳沢深志城北病院副院長は、「菅政権が現場の足を引っ張っている。自助・共助の菅政権を退陣させて政権交代を」と訴え。千葉勤労者福祉会の門脇めぐみ介護部長は、退職者が出るなか処遇改善が急務だと話し、「一人ひとりのいのちを守るため公助を生かす政治を」と語りました。共産、立民、沖縄の風の国会議員が出席。日本共産党の宮本徹衆院議員は「医療・介護に手厚い支援を行う政治に変えていきましょう」と話しました。

いのち署名請願項目

- ① 今後も発生が予想される新たな感染症拡大などの事態にも対応できるよう、医療、介護、福祉に十分な財源確保を行うこと。
- ② 公立公的病院の統合再編や地域医療構想を見直し、地域の声を踏まえた医療体制の充実を図ること。
- ③ 安全・安心の医療・介護提供体制を確保するため、医師・看護師・医療技術職・介護職等を大幅に増員すること。
- ④ 保健所の増設・保健師等の増員など公衆衛生行政の拡充を図ること。ウイルス研究、検査・検疫体制などを強化・拡充すること。
- ⑤ 社会保障に関わる国民負担軽減を図ること。

いのちを守る署名目標を達成し、新自由主義の政治からの脱却、転換をかちとりましょう!!

石川県社会保障推進協議会

代表委員 飯森 和彦

同 奥村 回

同 桶間 諭

同 橋本 明夫

同 松浦 健伸

はじめに

コロナ禍で、様々な困難がある中のご奮闘に敬意を表します。

今、医療、介護・福祉で働く人はもとより、多くの国民が先行きの見えない不安の中で過ごしています。野村総合研究所によると、コロナの実質失業者数は、女性を中心に90万人を超えるともいわれています。こうした状況を受けて、厚生労働省が「生活保護は権利です」とホームページで打ち出すようになりました。コロナ禍で明らかとなった、日本の医療、介護・福祉の貧困の抜本的な改善を勝ち取るのは、今後の運動が必須です。みなさんで力を合わせて、新自由主義の政治からの脱却・転換をかちとりましょう。

「いのちを守る署名」とは

「安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための国会請願署名（略称：「いのち署名」）」の請願項目は、①今後も発生が予想される新たな感染症拡大などの事態にも対応できるよう、医療、介護、福祉に十分な財源確保を行うこと。②公立公的病院の統合再編や地域医療構想を見直し、地域の声を踏まえた医療体制の充実を図ること。③安全・安心の医療・介護提供体制を確保するため、医師・看護師・医療技術職・介護職等を大幅に増員すること。④保健所の増設・保健師等の増員など公衆衛生行政の拡充を図ること。ウイルス研究、検査・検疫体制などを強化・拡充すること。⑤社会保障に関わる国民負担軽減を図ることです。コロナ禍の中ですべての国民が一致できる項目となっています。

石川県での到達について

先日の社保協の運営委員会で署名目標を3万筆と決定しました。現状は、石川民医連、石川県医労連合わせて、5000筆程度となっています。署名の受け止めはよく、介護事業所から600筆、ポスティングしたところから400筆となっています。中には、署名を増す刷りして届けてくれた事業所もありました。石川県医労連がこの間行った短時間の街頭署名でも多数の署名が集まっています。しかし、まだまだ、全体に署名がいきわたっている状況ではありません。

署名達成の意義

コロナ禍の中、医療のひっ迫した状況が連日のように報道されています。保健所職員やコロナ対応病棟で働く医師・看護師などの現状が大きく取り上げられています。

しかし、何故、今の現状があるのか、他国に比べて少ない医師・看護師数等はなかなか触れられていません。その一方で、菅内閣は、コロナ禍の中でも社会保障予算の自然増部分を削減する、高齢者にムチを打つ後期高齢者医療費窓口負担2割化を打ち出しています。感染流行地域での医療崩壊が叫ばれる中で、ベッドを削ったらもらえる助成金が84億円から195億円と倍になっています。この間の社保協の交渉でも石川県は、一昨年のような国が名指しするやり方はおかしいが、地域医療構想自体は、急性期から慢性期にベッドを減らすもので必要であり、推進する立場であると回答しています。

この署名目標をやり抜くことは、コロナ禍によって浮き彫りとなった新自由主義政治からの脱却・転換を、現政権に迫る大きな力となります。

今がチャンス的情勢

2007年に看護師の夜勤改善などを求める請願署名が採択されました。その当時は、100万筆集まり、紹介議員は、100人を超えました。その年は、7月29日投開票で行われた参院議員選挙で、自民・公明が過半数割れの大惨敗を喫し、参議院は民主党が第一党になることが起きました。今年は、10月までに必ず総選挙が行われます。紹介議員も自民党も含めて100名を超えています。

石川県社保協は、過去に健康保険2割負担反対で18万筆、健康保険3割負担反対で10万筆を集めて来た実績があります。

今から一気に署名を集めて、今の政治を切り替えましょう。

以上